

5回 協働のまちづくり推進特別委員会

令和4年8月17日(水)
時 分～ 時 分
(全員協議会終了後)
全 員 協 議 会 室

【委 員】 西田委員長、上野副委員長
村木委員、村武委員、柳楽委員、岡本委員、芦谷委員、川神委員
【議長・委員外議員】
【事務局】 河上局長

議 題

- 1 まちづくりセンターのヒアリングの総括について（報告）
まちづくりセンター地域別のまとめ【資料1】

- 2 まちづくりコーディネーターとの意見交換会について（報告）
まちづくりコーディネーターとの意見交換会振り返りシートのまとめ 【資料2】

- 3 今後の進め方について 【資料3】

- 4 その他

○次回開催 月 日 () 時 分 全員協議会室

現 状 分 析

浜田	優れている点	① 小中学校や幼児教育施設等との連携は比較的できている。 ② 公民館時代のつながりを大切にしている。 ③ まちづくりに対して真剣に取り組もうとしている。
	改革が必要な点	① 地区まちづくり推進委員会の必要性が認識されていない。 ② 地域協議会やまちづくり活動団体との関わりが薄い。 (エリアが広く連携が困難) ③ 行政との距離を感じる。
金城	優れている点	① センターになったことで、職員が一人増員となり、事業も進んでいる。 ② センターになったことをきっかけに、まちづくり組織の整理や新たな組織づくりが行われたところもある。 ③ センターと地区まちづくり推進委員会の組織が連携して、まちづくりに取り組んでいる。 ④ 住民も、センターを拠点に、地域課題の解決に向け、比較的、積極性をもって関わっている。
	改革が必要な点	① センターによっては、地域住民が担っていたまち委の事務局がセンターへ移管されるなど、サポート業務が増加し、職員負担が増大。 ⇒業務量に見合った職員体制を考えるなど検討が必要
旭	優れている点	① 耕作放棄地が多いことから、地域住民協働で農作物の栽培への取組など地域課題に向き合っている。 ② 健康づくりのための取組 ③ センターだよりの改善 ④ 気軽に立ち寄れる場所になるような取組 ⑤ まちづくり組織や自治会の行事などをセンターで確認 ⇒組織を越えて協働できる取組の開始
	改革が必要な点	① 協働のまちづくりについての住民の理解度不足。 ② センターが協働のまちづくりの主体と考えられているが、住民やまちづくり組織が主体であるべき ⇒理解してもらえるよう黒子として働きかける。
弥栄	優れている点	① センターと地区まちづくり推進委員会との円滑な連携体制 ② 小中学校における「共育事業」を中心とした取組
	改革が必要な点	① センターに、市のまちづくり計画書の説明がなされていない。 ② 公民館時代に培ったPDCAのP(プラン)の共有が必要 ③ センター職員のコーディネート力とファシリテート力が活かされていない。
三隅	優れている点	① センターにおいて、コーディネーターが積極的に参画している。 ② それぞれの役割が整理されている。 ③ 公民館時代のノウハウが引き継がれている。 ④ 地域住民と一緒に事業を進めている。
	改革が必要な点	① 職員の時間外手当について ② 参加者の高齢化、センターまでの移手段

連 携 ・ 協 働

浜田	○ 小中高校や幼児教育施設等、社会福祉協議会 △ 地区まちづくり推進委員会（設置されていない地域もあり、今後の課題） △ まちづくりコーディネーター（一部のセンターのみ） △ 自主防災組織（防災訓練等必要に応じての連携） × 地域協議会との関わりはほとんどない。 ⇒エリアが広すぎる・地縁より志縁
金城	○ 学校・自主防災組織 ○ 地区まちづくり推進委員会（設置されていない地域もあり、今後の課題） △ まちづくりコーディネーター（一部のセンターのみ） × 地域協議会との関わりはほとんどない。 ⇒地区まちづくり推進委員会との連携によりまちづくり事業も内容の充実も図られている。
旭	○ 学校（連携は図られているが、子供自体の数が少ないため、事業の充実が困難） ○ 食や健康に関わる団体・社会福祉協議会 ○ まちづくりコーディネーター ○ 地区まちづくり推進委員会・自主防災組織（ただし、センターは主役ではなく「つなぎ役」であることへの理解不足あり） △ 地域協議会（直接的な連携はないが、協議会の報告を受ける場合あり）
弥栄	○ 地区まちづくり推進委員会（2つのまちづくりセンターで、事務局を担っている。） ○ 学校（コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を目指すことも可能） ○ まちづくりコーディネーター
三隅	○ ほぼすべての関係団体と連携している。（特に子どもへの関わりが強い。） ○ 三隅地域内のまちづくりセンター間の連携も取れている。 ○ 地域協議会へもセンター長が委員として出席し、内容を各地区に周知している。

センターとして、最も力をいれてほしいところ・力をいれていると感じるところ

浜田	① 様々な人との繋がりを作り、住民が安心して暮らせる「くらしの拠点」としての機能 ② まちづくり組織のフォローと、つなぎ役としての役割 ③ センター職員の育成(職員はまちづくりのプロではないので) ④ 社会教育の手法を取り入れ、生涯学習を意識した事業展開(公民館時代からの手法) ⑤ 「まちづくり」のスタートとして地域を知る ⑥ 住民や子どもたちが主体的に活躍できる環境づくり
金城	① 公民館時代からの社会教育を実施してきたスキルを活かしまちづくりを連動して進めること。 ② 地域住民との関係性の構築 ③ 住民の健康維持、高齢者の移動手段など地域課題の解決 ④ 世代間交流事業や関係人口拡大事業を通しての人材の育成(後継者の発掘)
旭	① 気軽立ち寄れる集いの場になること ② 地域の困りごとの解決の手助け、高齢化が進む地区における現状維持を保つための取組 ③ センターはつなぎ役(黒子)として活動する。
弥栄	① 「人が集まる場所」すなわち、集う・学ぶ・つながるところとして、公民館時代と同様に、社会教育の手法を取り入れ、生涯学習を意識した事業展開
三隅	① 地域活動が進むよう地域リーダーの育成に注力 ② 大災害の経験を生かし、町内やまちづくりセンターにおいて、防災、見守り等に注力 ③ 関係人口の拡大や持続可能なまちづくり活動を展開(担い手不足の解消、センターを集える場所に)

課 題	
浜田	① センター職員はまちづくりのプロではない。⇒適切な研修体制を構築する。 ② 町内会、自治会、地区まちづくり推進委員会などまちづくりに関わる組織が多く、それぞれの役割がわかりにくい。⇒体制・役割の整理が必要 ③ センターの業務量が多い。⇒役割と業務の整理が必要 ④ 地域の高齢化によるリーダー・後継者の不足 ⇒埋もれている若手リーダーの掘り起こしが急務
金城	① 協働のまちづくりの意識が地域に浸透していない。 ② まちづくりを担う人材の不足(特に若者) ③ センター職員の資質の向上 ④ センターの業務量が多い。⇒役割と業務の整理が必要
旭	① 地域住民の協働のまちづくりに対する理解の増進が必要 ② 行政やコーディネーターの助言を得ながら、現状を聞き取り、まちづくりを進めていくことが望ましい。
弥栄	① ふるさと体験村の指定管理を地区まちづくり推進委員会で受けることが予定されている。まちづくり活動団体が指定管理を受けること自体があまり例がないため、注視していきたい。
三隅	① 後継者不足、役員の担い手不足、参加者の固定化 ② 行政職員やOBの参加が少ない。 ③ 高齢化が進みセンターへの移動手手段の確保が困難

地域全体のまちづくりへの考察

浜田	① 地区まちづくり推進委員会が、役員のみで活動してしまっている。 ② 市街地においても後継者不足は否めない。 ③ 地域住民の中で、まちづくりセンターと地区まちづくり推進委員会の区別がつかないなどの問題があるため、根本的に地域のまちづくり組織の在り方を地域単位で考え直す必要がある。 ④ それぞれのセンターが地域の実情に応じたまちづくりを模索しているので、成果を急いで求めないであげてほしい。 ⑤ 「まちづくり」とは、「市民等が地域の活動に参画し、自分達のが暮らす地域を住みよくしていくこと」であり、それは、社会教育、生涯学習に通じるものなので、まちづくりは、これまでの公民館活動の延長にあると考える。 ⑥ まちづくりセンターによっては、担うエリアが広かったり、人口が多かったりと、まちづくりの推進に苦慮している。
金城	① ほとんどのセンターにおいて、人口も比較的少なく、その中で今までの地域住民との関係性を活かしながら、まちづくりが進められていると感じた。 ② 金城地域の6か所のセンター間の連携と交流が図られている。この地域間交流、事業交流、情報交流が、市全体で行われることが、意識の醸成につながると感じた。
旭	① 高齢化が進む中において、住民が集うこと自体が困難な状況が到来している。行政によって、乗り合いタクシー等の移動手段の確保が進められているが、地域の実情に合った対応が今後も必要と感じる。 ② それぞれのセンターが地域の実情に応じたまちづくりを模索しているので、成果を急いで求めないであげてほしい。
弥栄	① 弥栄のみらい創造会議が策定した「弥栄地区まちづくり計画」に基づき、センターが担うべき、まちづくりの活動拠点としての役割を果たしてす。
三隅	① 「人づくり」に力を入れている。地域の子どもが地域を知る機会を増やそうとしている。 ② センター長をはじめとする職員の力を感じた。 ③ 人口減少を見据えた活動の継承と維持をどうやっていくかは、今後の三隅地区のみならず全市の課題になると感じた。

まちづくりコーディネーターとの意見交換会振り返りシートのまとめ R4.7. 11**●意見交換をする前と後でのコーディネーターに対する認識の変化**

○意見交換をする前○

- ① もっとまちづくりセンターに寄り添ってあげてほしい。
- ② 動きがわからなかった。



○意見交換後○

- ① それぞれの地域に応じた関わり方を工夫しながら、地域住民が主体となって課題解決できるように支援している。
- ② 「地縁」に関して、かなり深い部分まで関与している。
- ③ コーディネーターを分散配置から一局配置とした経緯が自身の提案と聞き感心した。
- ④ 行政部署との関わりが持たれている。
- ⑤ 取組姿勢と考え方が、想像以上に前向きで本気さが伝わった。
- ⑥ 市全体をよくしたいという頼もしさを感じた。
- ⑦ 日常的な活動、積極的な地区まちづくり推進委員会（以下、「まち委」という。）立ち上げへのアプローチ等、縁の下の力を感じた。
- ⑧ それぞれの専門分野はもちろんのこと、地域やまちづくりセンター（以下「センター」という。）の困りごとを解決するために真剣に取り組んでいる。

●「協働のまちづくり」を進めるうえでのコーディネーターの役割とは

- ① センターの職員の立場、役割を活かし、地域住民と一緒に、「協働のまちづくり」推進に向け取り組むこと
- ② 「協働のまちづくり」は、誰かがやってくれるものではなく、地域住民が主体となって地域の課題解決に取り組むことや、まちづくりとは難しいことではなく、できる人ができることをすることが大事だということを地域に気づかせるための手助けをする。
- ③ 地域の課題・困りごとの対処方法がわからない地域に対して、声を聴き、地域にできることにつなげることや、地域内のつながりの強化を図るための支援を行う。
- ④ 専門分野を活かし、または、入口にして人を動かすこと
- ⑤ 地域住民の中に入って、住民の心をくすぐったり、刺激したりして、住民の意識に変化をもたらすこと
- ⑥ 地域に存在する多種多様な団体のネットワーク化、及び地域課題を多くの方と共有する仕掛けを創ること
- ⑦ まちづくりは、担当部署、庁内で方向性を共有し、それをもとに市全体で取り組むことが重要であり、コーディネーターは、その調整役としての機能を果たす。

●議会として、コーディネーターの活動を応援できること

- ① 地域の情報をいち早く伝え、その地域の課題等と一緒に考えて考える。
- ② センターへ足を運び、センター職員、コーディネーターとの話を聞く。
- ③ 定期的に懇談会（情報交換会）を開催する。
- ④ 政策論争的な場も設定できると思う。
- ⑤ コーディネーターとアポを取り現場に同行する。
- ⑥ 浜田市に「生涯学習都市宣言」をしてもらうよう働きかける。
- ⑦ コーディネーターの専門分野や活動範囲はそれぞれ異なるが、各人の想いをしっかり受け止め、活動しやすい環境にしてあげること。

●意見交換会の感想

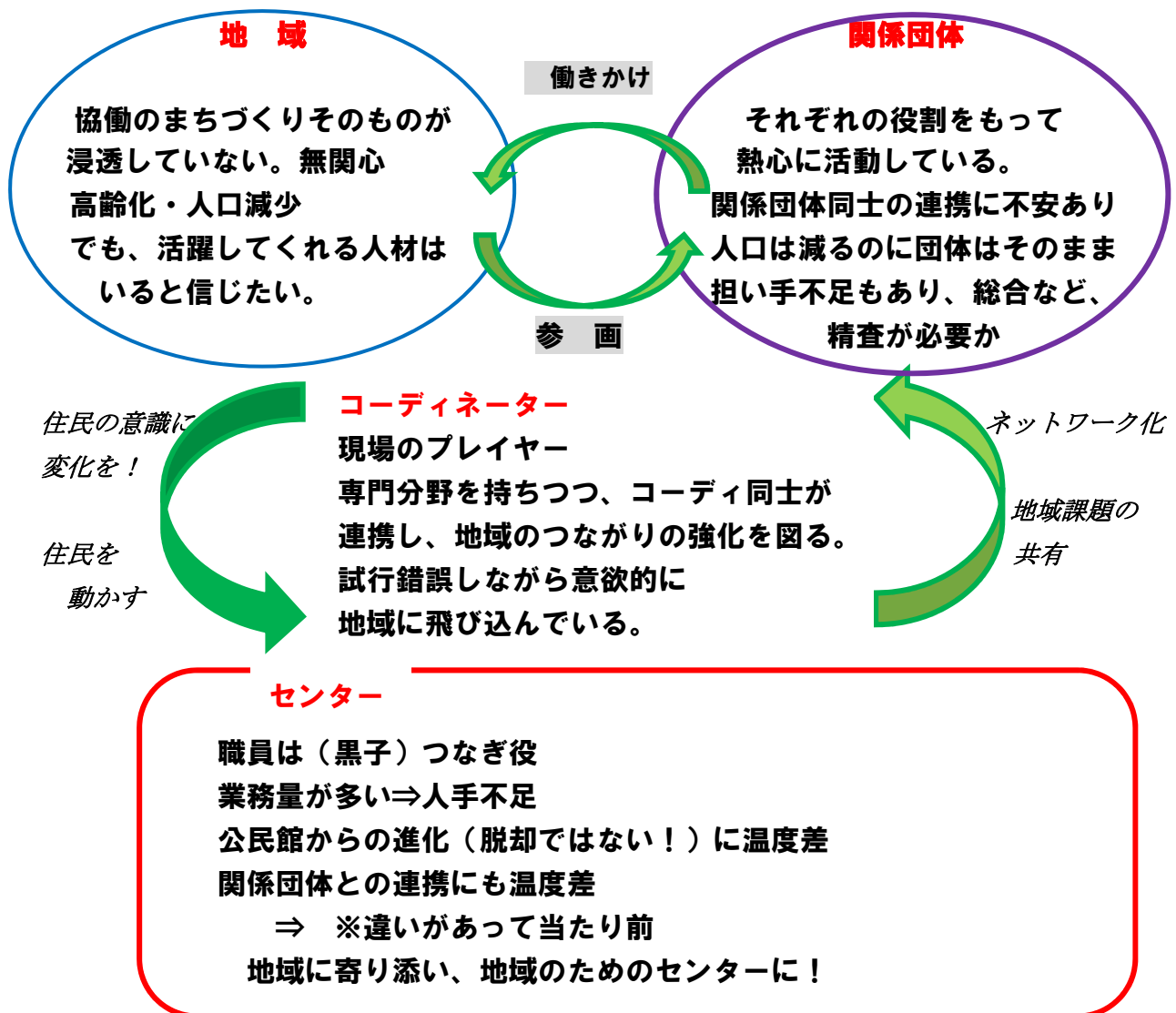
- ① まち委設立のために、真剣に活動されている苦労話は、とても感銘する点があった。
- ② 地域によって、コーディネーターとの関わりに差があると感じている。意欲的に取組まれているので、地域から積極的に相談できるような環境づくりが必要だと感じた。
- ③ 小中学生はまちづくりの戦力であり、子どもや若者がまちづくりに参加できる取組が必要との意見があり、どう巻き込んでいくかが大きな課題であると思った。
- ④ あるコーディネーターが発言された「学校と子どもたちの関わりからまちづくり」に同感する。自分自身、学校とまち委がつながることで「コミュニティースクール」ができないか模索している。
- ⑤ 今回、コーディネーターの活動状況がよく理解でき、感動と感謝の思いとともに、知ること、知ろうとすることの大切さを実感した。
- ⑥ 「協働のまちづくり」を市民一人ひとりが理解するには相当の時間がかかると感じた。
- ⑦ コーディネーターは、立派な現場プレイヤーだと思った。
- ⑧ 皆が、現場プレイヤーの気持ちを理解できないと、協働のまちづくりは進まない。
- ⑨ まち委を早くから立ち上げた地域のコーディネーターから、未設置地区での取組の様子を聞いてよかった。
- ⑩ コーディネーター同士の連携が強くなってきていると感じた。
- ⑪ 改めて、平成 31 年 3 月に中山間地域振興特別委員会が提言した「中山間地域振興に関する提言（集落機能の維持対策について）」がこれからの協働のまちづくりを目指すうえで大切であることを認識した。まずは、身近な組織との話し合いの積み重ねからだと思う。
- ⑫ 話をする中で、「何のため」に町内会や自治会が必要なのだろうか考えさせられた。
- ⑬ 暗中模索の中で令和 3 年度からスタートしたまちづくりコーディネーター制度は、本当に大変であったと思う。今年度は、「活動計画」を定めて進めていかれるとのこと、「同じ目的のために共に考え行動する」という協働の定義に合致しており感銘した。
- ⑭ 浜田市の「まちづくり」に対する柱（特に地縁）が必要だと思う。

⑮ 名実ともにまちづくりセンターが「地域のセンター」になることが、何より急がれる。

●行政に対して思うこと

- ① まずは、市としての考え方、方針を明確にすべきである。そのうえで、コーディネーターに業務分担、役割を示すべきである。⇒コーディネーターが、個々に手探りで地域と接しているようにみえた。そのため、具体的なこと、細部にわたることが、共有されていない。
- ② コーディネーターの権限の明確化と強化が必要である。
- ③ コーディネーターの位置づけを明確化し、勤務条件、身分の改善を行い、活躍できる環境と条件を整備すべきである。
- ④ 協働のまちづくりに対する市としての明確な考え方、具体的な方針がなく、地域それぞれがやることを是認している現実がみてとれる。防災、地域福祉、環境、生涯学習など協働のまちづくりに関係する部課の連携が必要であり、協働のまちづくり推進を担う専門部署の設置が必要である。
- ⑤ 行政連絡員、町内の役員、世話役などを洗い出し、協働のまちづくりを進めるうえでの位置づけや相関関係を明確にするべきである。

「協働のまちづくり」の推進に向けたこれまでのまとめ



行政は？

■キーワード

子どもを巻き込む/まちづくりは公民館活動の延長線であり、別物ではない。
地域資源の発掘/地域課題の共有/地域の個性

■今、急がれること・・・

まちづくり関係団体の交通整理

目指す方向が定まらず迷走している。具体的な目標を立てる。